

(12) 文字学習の否定の背景

くずれた“成熟優位説”

「就学前には文字教育はすべきではない」世界中の学者たちが長い間、こぞってそう言い続けてきました。その理由は、狼少女の研究で、世界的にその名を知られた、アメリカの心理学者アーノルド・ゲゼルの学説「成熟優位説」にあるのです。

ゲゼルは次のような実験を試みました。鶏の卵からかえったひよこは直ぐにえさをついばみ始めますが、初めはなかなかえさに、くちばしが正確に届きません。およそ一週間ほどたって、やっとうまくついでめるようになる、ということを観察して確かめました。

次に、卵からかえったひよこに一週間口の中に直接えさを注ぎ込んでやり、ついでむことを全くさせないで育て、一週間たって初めてついでむことをさせました。すると、最初の日はまだ卵からかえったばかりのひよこのように、うまくついでめませんでした。翌日にはもう見事についでめるようになった、というのです。

「普通なら一週間もかかる練習の成果を、わずか一日の練習で成功させた理由は、一体何であろうか」と考えたゲゼルは、その理由を“ひよこの成長”にあるのだと考えました。そこで「早い時期からあわてて、学習するよりも、成熟するのを待つてゆっくり始めた方が効率が良い」という仮説を立て、ゲゼルはそれを人間の子どもにも実験してみま

した。それは、積木遊びや階段登りという、まことに簡単な実験ではありませんでしたが、その結果は、やはり「成長を待つてゆっくり始めた方が良い」という結論を裏づけるものになりました。

この結論は、当然のように文字の学習にも推し及ぼされて「就学前に苦労させて文字を学習させるよりも、成長を待つてゆっくりと始めた方が、労少なくして効果が大きい」ということになったわけです。

さてこのゲゼルの弟子にマグロウという学者がいます。マグロウはゲゼルの成熟優位説をもっと多くの点で確認を得たいと考え、双子の誕生を機会に、次のような実験を自分の子どもに試みました。

まず双子の一人に、まだ十分に歩けないうちから、毎日一定時間、ローラースケートを足に着け、滑る練習を始めました。他方の一人には、十分に歩けるようになるのを待つて、初めてローラースケートの練習を始めました。

もちろん、マグロウは後者が前者の半分以下の練習で滑れるようになることを予想していました。ところが、実際はその逆になったのです。つまりローラースケートの練習には未熟なうちから早く始めた方が、成熟を待つて始めるよりも成功するのです。

こうして、ゲゼルの弟子のマグロウによって、成熟優位説は皮肉にも崩れ出しました。実は文字学習にも成熟優位説は通用しないのです。その事実と理由については次に述べます。